

## 幼保小の連携に即した授業の考察 —保育者希望と小学校教諭希望の音楽意識の違いから—

*A Study of Tuition from Relation between Kindergarten, Nursery and Elementary school  
— A Difference of Students' Music Consciousness —*

星野 英五 *Eigo Hoshino*  
(人間発達学部)

### I. 動機

2007年4月に開設された人間発達学部子ども発達学科は、2010年度で完成年度を迎えようとしている。本学部は、他大学同系列の学部にはない芸術的環境のもとで高い音楽意識を備えた学生を養成することを目的としている。

今までの研究では本学部学生は、旧短期大学部保育科学生と比較して、保育教育の理論と実践の密接な関係を把握しにくく、特に四年制1年次では実践をまだまだ遠い存在に捉えていることが分かる(星野, 2008)。

教育・保育者養成の音楽教育に大切なことは、子どもと楽しく音楽活動が共有でき、幅広い音楽技能と音楽的感性を身につけることである(星野, 2005)。

音楽は生活に潤いを持たせ、クラス運営の一助になるであろうことは誰しもの経験からいえることである。保育の中の音楽や小学校での音楽の授業は、子どもたちの感性を伸ばす力を持っている。子どもたちにより音楽を与えるには、学生の音楽意識を高めなければならない。音楽技能は短期間で修得は難しい。本学の充実した芸術的環境を活かし、できる限り早い時期から明確な音楽意識を持たせることが大切である。大学の音楽関連授業に興味を持たせ、学生自身が音楽を楽しんでいると感じることが必要であると考えられる。

今回の調査では、保育者(幼稚園教諭・保育士)・小学校教諭免許資格を同時取得する学生が多い現状から、3年次学生に音楽意識調査を行う。その結果を保育者希望(以下A群)と小学校教諭希望(以下B群)に分け比較検討し、どのような授業を実施したら芸術的環境を活かした本学部の特徴を発揮できるかを考察するものである。

### II. 研究方法

対象：2009年度3年生65名(男21名・女44名)

調査時期：3年次(2009年12月)

調査方法：一斉による質問紙調査

### III. 結果と考察

1. 保育者・教育者の音楽活動で重視するもの

表 1 音楽活動で重視するもの

単位：名 (%)

項 目	A 群	B 群
①子どもと一緒に歌う	58 名 (89.2%)	> 33 名 (50.8%)
②わらべ歌で遊ぶ	38 名 (58.5%)	31 名 (47.7%)
③子どもに合わせてピアノを弾く	39 名 (60.0%)	> 24 名 (36.9%)
④リズム遊びができる	36 名 (55.4%)	> 26 名 (40.0%)
⑤子どもに歌を歌って聞かせる	38 名 (58.5%)	> 13 名 (20.0%)
⑥子どもと一緒に手・指遊びをする	54 名 (83.1%)	> 5 名 (7.7%)
⑦絵本・童話の一部分にメロディーをつける	26 名 (40.0%)	> 11 名 (16.9%)
⑧色々な楽器が演奏できる	8 名 (12.3%)	< 25 名 (38.5%)
⑨器楽合奏指導ができる	3 名 (4.6%)	< 24 名 (36.9%)
⑩音楽理論が分かる	2 名 (3.1%)	< 11 名 (16.9%)

表 1 は、4 段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを群別に分けてまとめたものである。A 群は「①子どもと一緒に歌う」「③子どもに合わせてピアノを弾く」「④リズム遊びができる」「⑤子どもに歌を歌って聞かせる」「⑥子どもと一緒に手・指遊びをする」「⑦絵本・童話の一部分にメロディーをつける」を重視している (ps.<0.5)。B 群は「⑧色々な楽器が演奏できる」「⑨器楽合奏指導ができる」「⑩音楽理論が分かる」を重視している (ps.<0.5)。A 群は、音楽を楽しもうとする気持ちが強く子どもと一緒に音楽で遊ぶことを重視しており、B 群は色々な楽器演奏や理論・指導の仕方といった教員としての音楽的資質を重視していることが分かる。保育者を希望する学生と小学校を希望する学生に対して授業の内容を臨機応変に変えていかななくてはならない。しかし、幼保小において音楽の役割は一貫していることを踏まえ、その根底にある『自らが音楽を楽しむ心』を抑えていきたい。

## 2. 音楽的保育観・教育観〔①～⑧基本的事項・⑨～⑩配慮的事項〕

表 2 音楽的保育観・教育観

単位：名 (%)

項 目	A 群	B 群
①音楽のリズム活動は子どもの発達に大きく影響する	50 名 (76.9%)	> 39 名 (60.0%)
②音楽に親しむことは生活に潤いを持たすことになる	49 名 (75.4%)	44 名 (67.7%)
③音楽的感覚は小さいうちから育てる	34 名 (52.3%)	32 名 (49.3%)
④おだやかなメロディーは優しさや思いやりを育む	32 名 (49.3%)	30 名 (46.2%)
⑤音楽環境が子どもの心理状態に影響する	31 名 (47.7%)	27 名 (41.5%)
⑥わらべ歌遊びは日常的にとり入れるようにする	14 名 (21.5%)	11 名 (16.9%)
⑦合奏指導は、幼児期に体験させるようにする	10 名 (15.4%)	14 名 (21.5%)

⑧ピアノなどのおけいごとは幼児期から取り入れる	10名 (15.4%)	11名 (16.9%)
⑨生活区分に音楽を使う (給食・掃除・お片づけ等)	45名 (69.2%)	> 19名 (29.2%)
⑩動きのリズムを楽しませるにはモデルを示す	36名 (55.4%)	> 25名 (38.5%)
⑪鑑賞曲は時間の短いもの子どもの分り易いもの選ぶ	28名 (43.1%)	> 15名 (23.1%)
⑫音楽発表会は日常的活動から結びつける	27名 (41.5%)	21名 (32.3%)
⑬笛ハーモニカ等個人持ちとし各自で自由に使わせる	21名 (32.3%)	27名 (41.5%)
⑭CD等音響機器は音質のよいものを選ぶ	23名 (35.4%)	22名 (33.9%)
⑮手・指遊びは子どもを集中させるために使う	25名 (38.5%)	> 5名 (7.7%)
⑯打楽器は自由に使わせるよう設置する	13名 (20.0%)	12名 (18.5%)

表2は、4段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを群別に分けてまとめたものである。基本的事項では「①音楽的リズム活動は子どもの発達に大きく影響する」、配慮的事項では「⑨生活区分に音楽を使う (給食・掃除・お片づけ等)」「⑩動きのリズムを楽しませるにはモデルを示す」「⑪鑑賞曲は時間の短いもの子どもの分り易いもの選ぶ」「⑮手・指遊びは子どもを集中させるために使う」がB群よりA群が高い (ps.<0.5)。全体的にも殆どの項目でA群の音楽意識が高い。しかし、基本的事項においてB群も小学校学習指導要領の低学年の音楽の目標をある程度理解していることが分かる。B群の学生に、音楽はまず自ら楽しむことから音楽活動が発展していくという基礎理念を把握させることによって、小学校での音楽授業の重要性を認識させていきたい。

### 3. 音楽的保育教育者観〔①～⑥資質・⑦～⑭技能〕

表3 音楽的保育者観・教育者観

単位：名 (%)

項目	A群	B群
①子どもの発達にあった曲が選択できる	44名 (67.7%)	37名 (56.9%)
②音楽が好きである	43名 (66.2%)	> 34名 (52.3%)
③子どもの気持ちを读取音楽活動に活かす	34名 (52.3%)	32名 (49.2%)
④手・指遊びを創作アレンジできる	34名 (52.3%)	> 9名 (13.9%)
⑤生活の中でリズムカルな動きができる	25名 (38.5%)	20名 (30.8%)
⑥明るいきれいな声である	19名 (29.2%)	14名 (21.5%)
⑦歌える歌のレパートリーが多い	43名 (66.2%)	39名 (60.0%)
⑧音楽に合わせて体を動かすことができる	40名 (61.5%)	> 29名 (44.6%)
⑨子どもの発達に合った音楽指導ができる	37名 (56.9%)	40名 (61.5%)
⑩リズム感がよい	33名 (50.8%)	> 31名 (47.7%)
⑪安定した音程で歌える	27名 (41.5%)	31名 (47.7%)
⑫子どもに合わせてピアノなどが弾ける	32名 (49.2%)	> 18名 (27.7%)

⑬手・指遊びが上手である	37 名 (56.9%) > 13 名 (20.0%)
⑭初見ができる (ピアノ等)	31 名 (47.7%) > 17 名 (26.2%)

表 3 は、4 段階評定の内『非常にそう思う』と回答したものを群別に分けてまとめたものである。資質では「②音楽が好きである」「④手・指遊びを創作アレンジできる」、技能では「⑧音楽に合わせて体を動かすことができる」「⑩リズム感がよい」「⑫子どもに合わせてピアノなどが弾ける」「⑬手・指遊びが上手である」「⑭初見ができる (ピアノ等)」は A 群が B 群より高い (ps.<0.5)。表 2『保育観・教育観』と同様に殆どの項目において、B 群が A 群より比率が低い。小学校教育にはそれ程音楽は必要がないという意識の表れではないかと考える。これは音楽の基礎理念を授業でおさえられていない結果と推察する。小学校音楽教育の指導要領を深く理解しきれていないのであろう。保育者が日常の保育の中に音楽を導入しようとする意識と同様に、まず小学校低学年において幼保小連携を踏まえた音楽教育を実践する小学校教諭を養成したい。

#### 4. 小学校実習と就職への音楽活動に対する不安

表 4 実習・就職への不安 [①～⑦技術理論・⑧～⑪指導実践]

項 目	A 群 B 群共通
①ピアノがすぐに初見で弾けない	22 名
②リコーダー等色々な楽器が演奏できない	6 名
③理論等音楽全体の知識が浅い	5 名
④歌が上手に歌えない	4 名
⑤弾き歌いのレパートリーが少ない	2 名
⑥コード伴奏や移調がうまくできない	6 名
⑦手遊びやわらべ歌が上手くできない	2 名
⑧音楽の授業を自分でやらなければならない時	10 名
⑨指導案の書き方について	5 名
⑩音楽の楽しさを子どもたちに伝えられるか	4 名
⑪発達に合わせた歌や楽器の指導方法	4 名

表 4 は、これから始まる小学校実習<sup>1)</sup> や就職にあたり音楽活動で不安に思うことをまとめたものである。[技術理論] では「①ピアノがすぐに初見で弾けない」の項目に不安を多く感じている。その結果から音楽技能の向上を計ることで不安が軽減されることが推察される。[指導実践] では、漠然とした小学校実習に対する不安の大きさが伺える。これに対しては授業内で模擬小学校音楽授業をできる限り多く実施する必要があると考える。音楽は人間の心を揺さぶり子どもの情緒の安定をもたらす力を持っており音楽教育の重要

性を学生に認識させたい。

#### IV. まとめと今後の課題

学生は、4年間のカリキュラムの中で幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の免許資格を取得しようとしている。幅広い年齢層を対象とした免許資格の取得を目指すことは、理論と実践が結びつきにくいと考える。授業と実習を効果的に行い、明確な音楽意識を持たせたい。学生は保育者にとっては音楽が重要な役割を持っていることを理解している。小学校教諭においても同じように音楽が重要な役割をもっていることを理解させたい。

小学校学習指導要領には第1学年及び第2学年の目標として、「楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものとして態度と習慣を育てる」と明記されている。幼稚園教育要領には「幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること」、保育所保育指針では「保育所の保育が、小学校以降の保育の中の生活や学習の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること」とあり、明確な幼保小の連携を求めている。

「教科音楽」で、幼稚園・保育所と小学校教育の中の音楽の連携の理解を深め、系統立てて音楽関連授業に興味を持たせる必要がある。音楽意識調査を継続的に行い、音楽に対する意識付けを明確にすることによって、芸術大学に即した授業が展開できると考える。

注1) 保育所実習 2年時／9月・2月／各2週間（調査実施時には終了）

幼稚園実習 3年時／9月／3週間（調査実施時には終了）

小学校実習 4年時／6月或いは9月／4週間（調査実施時には未実施）

#### 引用文献

星野英五 2005 「学生の意識調査に基づく授業展開報告」

全国大学音楽教育学会研究紀要第16号 pp.21-30

星野英五 2009 「本学学生の音楽意識—短期大学と四年制大学の比較から—」

名古屋芸術大学研究紀要第30巻 pp.393-398

追記：本稿は、日本保育学会第63回大会発表論文集「学生の音楽意識—保育者希望と小学校教諭希望の関わりから—」を転載・改稿したものである。

## 資料 質問紙

### I. あなたの免許・資格取得と就職について

①あなたはどの資格・免許を取得しますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 保育士資格 3. 小学校教諭免許

②あなたの就職希望は、現在、どれにあてはまりますか。右欄の数字に○をつけて下さい。

1. 幼稚園 2. 保育所(園) 3. 小学校 4. 施設関係 5. その他 ( )

### II. 教育者・保育者の音楽意識について

あなたは、幼稚園や保育所や小学校低学年での音楽活動について、どのような点に気をつけて実施すればよいと思いますか。及び、どのような音楽活動が心に残っていますか。

### III. 教育者・保育者養成の授業について (あなたが取得する免許・資格に関わらず答えて下さい)

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 子どもに合わせてピアノを弾く (2) 子どもに歌を歌って聞かせる (3) 子どもと一緒に歌う  
(4) 子どもと一緒に手・指遊びをする (5) わらべ歌で遊ぶ (6) 音楽理論が分かる  
(7) 器楽合奏指導ができる (8) リズム遊びができる  
(9) 絵本・紙芝居・童話等を読む時にメロディーをつけることができる  
(10) いろいろな楽器が演奏できる

### IV. あなた自身の保育園・幼稚園・小学校実習等の音楽活動に関する自己評価の予想

あなたは、今後の学習を含めて以下の項目はどのくらいできると思いますか。

4「非常によくできると思う」、3「ややできると思う」、2「あまりできないと思う」、1「全くできないと思う」の中から1つを選んで○をつけて下さい。

- (1) 子どもの歌に合わせて伴奏する (2) 子どもの歌を正伴奏で弾く (3) 弾き歌いをする  
(4) 子どもの声域に合わせて移調奏をする (5) 子どもに合わせてマーチを弾く  
(6) 子どもの要求した歌をピアノで弾く (7) メロディーだけの楽譜に伴奏をつける  
(8) 簡単な音楽理論・コードネーム等がわかる (9) 子どもと一緒に歌を歌う  
(10) 子どもと一緒に手・指遊びをする (11) 楽器の(ハーモニカ・打楽器など)扱い方の指導ができる  
(12) 子どもと一緒に歌を楽しく歌う (13) リズム遊びをする (14) わらべ歌で遊ぶ  
(15) 音楽に合わせて体を動かす

### V. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。

4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者(幼・保)教育者(小学校)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する  
(2) 音楽に親しむことは生活にうるおいを持たせることになる

- (3) 音楽環境が子どもの心理状態に影響する (4) おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ
- (5) 音楽的な感覚は小さいうちから育てる (6) わらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする
- (7) 合奏指導は、幼児期に体験させるようにする
- (8) ピアノなどのおけいごとは幼児期からとり入れるようにする
- (9) 鑑賞曲は、時間の短いもの、子どもに分かり易いものを選ぶ
- (10) 笛、ハーモニカなどは個人持ちとし、各自で自由に使わせる
- (11) 音楽発表会は、日常的な活動からむすびつける
- (12) 打楽器は自由に使えるように設置する (13) 手・指遊びは子どもを集中させるために使う
- (14) CDやMDレコーダーなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ
- (15) 生活区分に音楽を使う(給食・お弁当・掃除・おかたづけ等)
- (16) 動きのリズムを楽しませるには、モデルを示す

#### VI. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生として、次の項目はどの必要であると思いますか。

4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から教育者(小学校)・保育者(幼・保)に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

- (1) 音楽が好きである (2) 生活の中でリズムカルな動きができる (3) 明るいきれいな声である
- (4) 鍵盤楽器(ピアノ・エレクトーン)以外の楽器ができる
- (5) 手・指遊びの創作やアレンジができる
- (6) 子どもの発達に合った曲が選択できる
- (7) 子どもの気持ちを読み取り音楽活動に結びつけることができる
- (8) 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる (9) 子どもに合わせてピアノなどが弾ける
- (10) 子どもの発達に合った音楽指導ができる (11) 安定した音程で歌える
- (12) 歌える歌のレパートリーが多い (13) リズム感がよい。初見ができる(ピアノ・エレクトーンで)
- (14) 音楽に合わせて体を動かすことができる

#### VII. これからの実習や就職について

これから始まる保育所・幼稚園・小学校の実習や就職にあたり、音楽活動で不安に思うことがあれば自由に書いてください。

どうもありがとうございました。